

令和 8 年 2 月 20 日

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース	
A グループ研究A	
校舎コード(代表者校舎の市費コード)	
731660	
選定番号	A114

代表者	校舎名:	東粉浜小学校
	校舎長名:	校長 津田 毅
	電 話:	6672-0313
	事務職員名:	松谷 水穂
申請者	校舎名:	大阪市立東粉浜小学校
	職名・名前:	教頭 三好 和彦
	電 話:	6672-0313

令和7年度 「がんばる先生支援」報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究(2年目)												
2	研究テーマ	「自分の考えを表現し、深めようとする子どもを育む」 ～見方・考え方を働かせた対話とふりかえりの充実～															
3	研究目的	<p>1 「自分の考えを表現し深める力」＝「練り上げる力」を育成するために、児童が自己や他者などとの互いの考えを比べ、話し合いを通じて学びを深めるためにどんな見方・考え方を働かせるべきかを明らかにした指導方法を研究し、質の高い対話的な学びを目指す。</p> <p>2 児童の学びの深まりを見取るとともに、児童自身も学びを深めることができるようにふりかえりを充実させることも大切であると考え、評価について明らかにする。</p>															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシツク 9.5ポイント)</p> <p>4月・研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果、年間計画等について 共通理解を図るためICT研修会や会議を開いた。 ・児童教員の実態把握のため、児童、教員アンケートをフォームズで実施・分析した。</p> <p>6月【研究授業6年 国語科】(指導案検討会・研究討議会) Googleクラスルームを使い自分の考えとみんなの考えを投稿しながら読み比べた。</p> <p>7月【研究授業1年 国語科】(指導案検討会・研究討議会) インタビュー形式で対話を深め、1年生でもできるふりかえりの仕方を工夫した。 ・研究について理解を深めるため教科・領域研修会、ICT実践報告会を行った。</p> <p>9月【研究授業4年 国語科】(指導案検討会・研究討議会) Googleスライドを活用しながら考えを共有し、掲示物などで見方・考え方や話す聞くの話し型をしめし対話を深めた。</p> <p>10月【研究授業2年 国語科】(指導案検討会・研究討議会) Skymenu発表ノートを活用し、考えを共有。「み・か・ん」のふりかえりの活用し学びを深めた。</p> <p>11月【研究授業5年 社会科】(指導案検討会・研究討議会) Googleクラスルームスプレッドシートを活用しながら、ふりかえりを大切に子どもの問いをつなげる単元を構想した。 【研究授業6年 社会科】(指導案検討会・研究討議会) Googleスライドを活用して対話を活性化するようにした。 ・LDXS指定校の視察に行き、ICTの効果的な活用法を学んだ(新潟)</p> <p>1月・全市公開の研究発表会を行い、研究の取り組みを発表した。 【研究授業3年 社会科・図画工作科】(指導案検討会・研究討議会) Googleクラスルーム、スプレッドシート、フォームを活用しながら、ふりかえりを大切に子どもの想いをつなげる単元を構想した。 ・研究の成果と課題を分析するために児童・教員アンケートの実施し分析した。 ・学びの本質についての研究発表会に参加し研究への理解を深めた。(東京学芸大附属小)</p> <p>2月・来年の研究につなげる指標の一つとして学力経年調査の結果分析をした。 ・研究発表会に参加し来年の研究の視点に活かした。(筑波大学附属小)。 ・休み時間などには、「ラッコたん」、「寿司打」などのタイピング練習アプリができるようにタイピング能力が向上できるようにした。また中学年以上は連絡帳にGoogleクラスルームを活用するようにし自分で情報収集できるようにしたり、一人一台端末の活用を日常的にできるようにした。さらに研究授業ではTeamsで様子を配信しどこからでも参観できるようにした。そして討議会ではGoogleスライドを活用し教員の情報活用能力、端末活用も向上できるようにした。これらの取り組みを研究通信にまとめ日々教員と共有しながら研究を深めた。</p>															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 1 月 23 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 35 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立東粉浜小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				日程	令和 8 年 1 月 23 日	参加者数	約 35 名	場所	大阪市立東粉浜小学校			備考			
日程	令和 8 年 1 月 23 日	参加者数	約 35 名														
場所	大阪市立東粉浜小学校																
備考																	

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>理解した情報や感じたこと、想像したこと、形成した考えなどをまとめ、言葉を通じて表現しあい、自己や他者を尊重しようとするとともに自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするようになる。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>学習の振り返りの中で、自分が考えたこととその理由を説明することができるようになったり、友だちの考えを聞いて自分の考えに付け足したり新しい考えを見つけたりすることができたと肯定的な意見をもつ児童の割合を8割以上にする。</p>
		<p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果の全体平均を見ると、昨年度に引き続き8割以上の児童が、①「自分の考えをもち表現する力」と②「自分の見方・考え方を広げ深めようとする力」に関する項目に肯定的に回答している。特に②の力については、全体平均で9割を超えており、1年生や5年生などの特定の項目では100%に達するなど、研究の成果が極めて顕著に表れている。これは、各学年において「見方・考え方を働かせた対話」を実現するための手立てとして、Googleスライドや「発表ノート」を活用して他者の考えを可視化し、自分との相違点に着目させたことや、1年生での役割演技（動作化）やマイクを用いたインタビュー形式を導入して対話を活性化させた成果である。また、「ふりかえり活動の充実」を図るため、「なるほどさん（友だちの良さ）」や「み・か・ん（見つけた・考えた・疑問）」といった具体的な観点を明示し、Googleフォームやスプレッドシートを用いて他者の振り返りをリアルタイムで参照可能にしたことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した授業改善が着実に進んだと言える。一方で高学年になるにつれて①の力が課題になっていることがわかった。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>児童が対話を通して、考えを深めることができるような主体的・対話的で深い学びの推進を図る。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>研究発表会で研究の成果を発表し、指導助言者による指導助言並びに参会者からの意見、感想などをいただくことで、その検証を行う。また参会者にアンケートを実施し、研究に対しての肯定的な意見を8割以上にする。</p>
<p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケートの結果から、校内・学外を問わず授業研究会は極めて高い充実度であったと言える。校内の研究授業では、参加した教員の90%が「とても充実していた」と回答しており、授業内容の深化や広がりについても同様に高い評価だと分かる。また、公開研究発表会においても、9割以上の参加者が資料の分かりやすさや新たな発見があったことを肯定しており、得られた知見を今後の実践に活かそうとする意欲も8割を超えている。また感想からは、子どもたちが主体的に目を輝かせて取り組む姿や、個別最適な学びと対話を深める工夫、ICTの効果的な活用が参観者の深い学びに繋がったことが分かる。これらの結果は、本授業研究会が教員の情報活用能力を高め、授業改善に向けた知見を共有する場として十分に機能したといえる。</p>		
<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>情報端末の基本的な操作や、問題解決・探求における情報活用、情報モラルなどの情報活用能力向上に取り組む。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>年度初めと終わりに情報活用能力についてのアンケートを取り、情報端末の基本的な操作技術や、問題解決・探求における情報活用能力、情報モラルについての理解などについて肯定的な意見をもつ児童の割合を8割以上にする。</p>		
<p>〔検証結果と考察〕</p> <p>情報端末の基本的な操作技術に関してはすべての学年の児童が8割以上の肯定的回答を示している。、問題解決・探求における情報活用についても2年生の「表やフローチャートの活用」という項目以外が8割以上の肯定的回答を示している。情報モラルの健康への配慮（姿勢や時間管理）については、学年が上がるにつれて「あまりできない」とする児童が増え肯定的な回答が7割～8割となっている。自己管理能力の育成が共通の課題となっている。また本校の児童は、全国平均と比較して共同編集やキーワード検索において高い自信と習熟度があることが分かる。しかし全国平均との共通の課題として「情報の信頼性の確認」や「クラウド管理」といった高度なスキル、および「姿勢や時間管理」といったICTの日常化に伴う自己管理能力の育成が現れている。基本的な操作の習得は順調であるため、今後は情報の真偽を見極める力や、目的に応じたアプリケーションの選択といった、より高度な「活用と自律」の指導が求められる。</p>		

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>授業中にICTを活用して指導したり、児童のICT活用を指導したりする力の向上を図る。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>年度初めと終わりに情報活用能力についてのアンケートを取り、情報端末の基本的な操作技術や、問題解決・探求における情報活用能力、情報モラルについての理解などについて肯定的な意見をもつ教員の割合を8割以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>全体的な傾向として、年度当初（4月）は操作や指導に不安を感じていた教員が多かったのに対し、年度末（1月）には、ほぼ全ての項目において「できる」「ややできる」と回答する教員の割合が大幅に増加し8割以上の肯定的な回答が見られ、能力の底上げが図られた。公開授業研究会のアンケートでは、参観した他校の教員からICTの活用方法が参考になったとの声が数多く寄せられた。2年生の授業において、児童のパソコン入力スキルの高さが驚きをもって受け止められ、教員が基本的な操作技能を定着させる指導力を十分に身に付けたことが児童の姿から分かる。また、年度当初は「できる」と回答した項目が極めて少なかった教員も、1年間の研究を通じて教材提示から情報モラル指導までの全方位的な能力を向上させている。このような教員の情報活用能力の伸長は、児童が自らの考えを表現し、見方・考え方を深める力を育むための強固な基盤となった。</p>
---	-------	--

6	研究全体を通じた成果と課題	<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>○児童が資料を選べるようにしたり、思考ツールを活用したりすることが個別最適な学びを充実させ自分の考えを持つ手立てとなった。また考えたことをグループでさらに練り上げる時間をとるなど、小グループでの活動を効果的に取り入れることで児童が考えを深めようとする事につながった。</p> <p>○クラウドを活用することで、学びの記録も含めた他の児童の考えをいつでもどこでも見ることができた。これによって全体交流での対話が活発になり進んで、自分の考えを広げ深めようとする姿が見られた。ICTの効果的な活用方法を考えることで、児童だけでなく教員の情報活用能力の向上につながった。深い学びを目指すためには、児童がどのような「見方・考え方」を働かせるのかを明らかにして単元構成を考える必要がある。指導者がこの視点を持って教材研究に取り組むようにする。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本年度は、質の高い対話的な学びを目指し、ICTなどを活用してふりかえり活動を充実することで考えを可視化し、学びを深める力を伸ばす指導方法を研究した。その結果、8割以上の児童が表現力に自信を持ち、特に「見方・考え方を広げ深める力」は全体平均で9割、特定項目で100%に達するなど、練り上げる力の育成に大きな成果が見られた。低学年での役割演技やマイクの活用も対話の活性化に寄与した。評価については、具体的な観点を明示した「ふりかえり」をGoogleフォーム等でリアルタイムに共有したことで、他者の視点を取り入れながら自らの学びを深める「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」が着実に進展した。教員側も、ICTを用いた教材提示や情報モラル指導などの全方位的な能力が底上げされ、研究会を通して実践知を共有する体制が確立された。一方で、高学年における表現力のさらなる伸長や、情報の信頼性の確認といった高度なスキルの育成、およびICT日常化に伴う姿勢・時間管理などの自己管理能力の育成が今後の課題である。今後は、基本操作の定着を基盤に、目的や状況に応じてICTを自律的に使いこなす力の育成を一層充実させていく必要がある。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>≪代表校園長の総評≫</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>自分の考えをもてるようになること、それを発表し他者と意見を交流することでより考えを深めること、考えを練り上げることを研究の大きな柱の一つと考えてきた。同時に、昨年度実践した文部科学省リーディングDXスクール事業を踏まえ、一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として誰でも簡単に使えるように学年で系統立て指導育成してきた。その結果、各自の考えを集団の中で比較検討したり共有したりすることで、より深い学びへとつなげるようになってきつつあるので、次年度以降も期待したい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度までの研究で、自分の考えを持てるようになること、それを発表し他者と意見を交流することでより考えを深めること、考えを練り上げることを大きな柱の一つととらえ、その手助けとなるように、一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として学年で系統立てて日常的に活用し情報活用能力を育ててきた。それをさらに昇華すべく、どの教科においてもそれぞれの見方・考え方を働かせた対話と学びを深める振り返りを大切にする授業を研究してきた。その成果と課題を受けさらに「深い学び」となるよう次年度以降も研究を継続したい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>
---	---------------	--